資料3
科学技術・学術審議会
研究計画・評価分科会
（第 95 回） R7.1.27

研究開発プログラム評価について

令和7年1月
研究計画・評価分科会事務局

研究開発プログラム評価については、「国の研究開発評価に関する大綱的指針（平成28年12月21日内閣総理大臣決定）」「文部科学省における研究及び開発に関する評価指針（平成14年6月20日、最終改定平成29年4月1日）」等に基づき、第10期及び第11期の研究計画・評価分科会において、試行的実施を行いつつ、文部科学省における適切な仕組みの在り方についてご議論を頂戴してきた。

今期（第12期）においても研究開発プログラム評価の試行的実施に取り組むとされ、第11期末の第84回分科会における議論（下記参照）や、他府省の研究開発プログラム評価の仕組みの在り方等も踏まえて課題の抽出等を進めてきたところ、評価書の分量、評価の実施時期等について改めて整理していくことの重要性が明らかになってきた。

また、こうした中で次期（第7期）科学技術・イノベーション基本計画の策定作業が昨年末より始まり、当該基本計画が策定された後は上記大綱的指針の見直しも考えられること等から、研究開発プログラム評価の適切な仕組みの在り方については、その試行的実施も含め、次期分科会において改めて整理・議論することとさせていただきたい。

【参考】
第84回研究計画・評価分科会（第11期令和5年1月31日開催）における研究開発プログラム評価の議論の際に出された主な意見

1．研究開発プログラム評価の趣旨について

○　複数の研究開発課題がある中で、それぞれの有機的な関連性を念頭に、「大」目標への貢献状況について俯瞰していくことが一番重要ではないか。その意味で、数値目標や数値指標のようなものだけを見ていくことの妥当性については疑問であり、例えば、現在のプロジェクトが次のプロジェクトにどのように繋がっていくのか、また、今動いている別なプロジェクトへの影響などが分かるような形にして、みていくことがあるべき姿ではないか。

○　プログラム全体のアウトカム指標、概要に書かれたような趣旨から考えると、当該分野の研究開発基盤や環境の整備状況、当該分野の我が国の研究開発力と他国の比較、高度な研究機器の開発状況など、個別の研究開発課題というより、概要に書かれているような、分野についての状況がどうなっているかということが分かるような指標というのが立てられればしかるべきだが、実際は非常に難しいと思う。

○　プログラム評価の評価票を埋めていく作業を行っていく中で、日本における当該分野の状況として最終的にどういう形になれば望ましく、研究課題群は構成として十分よいのか、という議論が、このプログラム評価という作業をする中で議論として展開されていればとても良いと思う。今後は、各分野の中での建設的な議論を誘導していくような形に、変えていければよいのではないか。

○　数値目標は数字が先行し、例えば、論文生産を増やすことの必要性などに注意が行きがち。数値目標がある中で、きらりと光る良い仕事などのピックアップの難しさを感じた。

○　プログラム評価のフォーマットの中に、プログラムの実施状況を踏まえた進捗状況のコメントを書けるような欄があったが、委員会の中は、そこまでの議論をする時間がなかった。今回は試行ということなので、次回からこの指標値の変化、あるいは進捗状況も踏まえて、委員会として、大変ではあるが、プログラムの現状、今後の方向性、社会への影響のような、俯瞰的な意見を書くほうがよいかもしれない。

○　指標について、アウトプット指標とアウトカム指標の両方があるが、文科省の事業は通常5年で更新もしくは次のプロジェクトに移ることが多い。事業に切れ目があると、指標の継続性が途切れたり、空欄ができ、急に数字が出てきたりすることになる可能性がある。補助的な指標を加えることもできると思うが、テクニカルな面で問題点もある気がする。

○　統一フォーマットでデータ整理でき、情報が集まってきたことは今期大きく進歩したところ。各委員会で、分野について、この資料を使って、全体を俯瞰した議論がこの資料でできるのかどうかというのが、一つ課題としてあるのではないか。

○　委員会毎に議論をした上で、本分科会で議論をしていくなど、2段階の議論が要るのではないか。今日は資料のディテールをかなり急いで御紹介いただいたが、計評分科会では、この資料を基にどういう議論が分野別委員会でなされて、どういう状況だという説明をして、みんなで状況を俯瞰的に見ていくというようなやり方もあるのかとお聞きした。

○　内容の改善というのはあるかもしれないが、今回の情報をどううまく使って、分野での議論やさらには文科省全体のプログラムの議論というのができていければいいのではないか。そういった観点で、今回の試行も踏まえて来期につないでいっていただければありがたい。

2．研究開発プログラムの粒度について

○　プログラムの粒度や考え方が委員会毎で異なっているように見えており、もう少し統一した方がよいのではないかと感じる。

3．研究開発プログラム評価の利害関係者について）

○　プログラム評価が、いわゆる評価が主体ではなく、全体的に俯瞰して確認するということが主であるというのであれば、個々の研究開発課題の利害関係者は排除する必要はないのではないか。